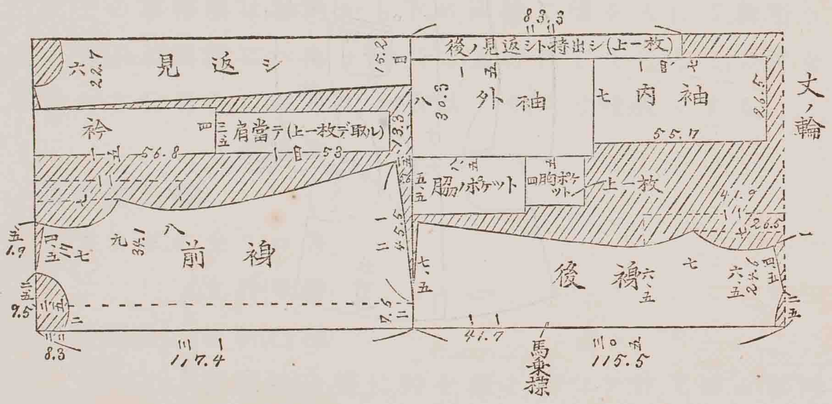
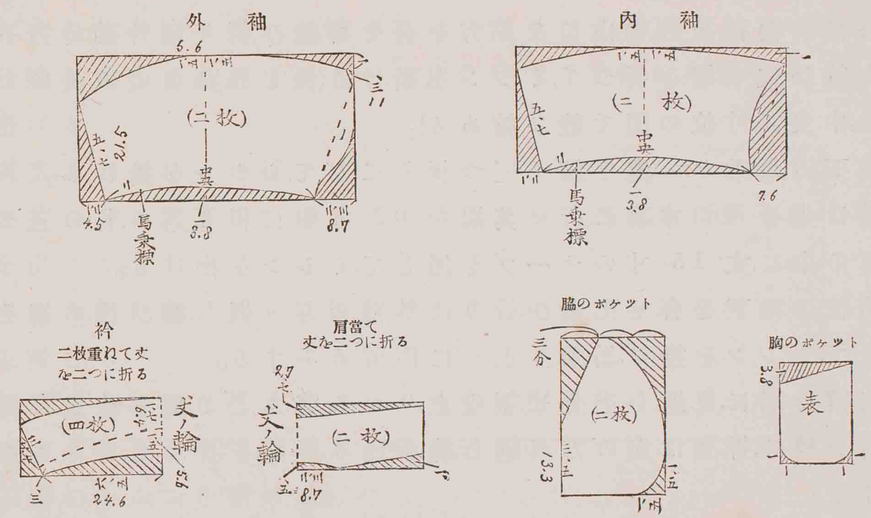
裁ち方綜合圖(丈を二つに折る)



分解裁ち方圖



殘り布から,掛け紐にする布とポケットの口布を取る。

縫ひ方 (ミシン縫ひ)

(い)外袖と内袖との,袖山になる方を合せて縫ひ,折りは外袖の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける(但し外袖の丈の長いだけは,中央2寸位の間で縫ひ縮める)。

(ろ)袖下の馬乗りの處を,細く三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(は)袖口先を 0.8 寸裏に折り其端を 0.2 寸中に折り込み,其の三つ折りの中に,丈 1.5 寸のテープを通して,ミシンを掛ける。

(に)前後の袖下を合せて縫ひ,折りは外袖の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛け,馬乗り止りに閂留めをする。

(ほ)前裾の端に,見返しを合せ,顎の止りから縫ふこと,男事務服と同じ。

(へ)背を縫ひ,折りは左の方へ返し,縫ひ込みの端を折つて,ミシンを掛ける。

(と)背の馬乗りに,持ち出し及見返しを附ける,其附け方は,持ち出し及見返し布を,左裾口から馬乗り止りまで縫ひ附け,其所で糸留めをなし,其糸を續けて,右裾口まで縫ひ附け折りは,持出し見返し布の方へし,其の端を折つて,幅 0.7 寸の縁となし,見返しになる方は,その縁を更に裏に折り返して,持出し見返し共幅の兩端にミシンを掛ける。

(ち)肩當ての下を,三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(り)後裾の肩と肩當ての肩とで,前肩を挾んで縫ひ,表に返してミシンを掛ける。

(ぬ)左右の脇を縫ひ,折りは後の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(る)裾口を1寸裏に折り,其端を0,2寸中に折り曲げて,ミシンを掛ける。

(を)裏表の衿を合せて,外廻りを縫ひ,表に返して縫ひ目,及折り目の標の處にミシンを掛ける。

(わ)幅 0.15 寸丈 2 寸の作り紐を,斜布で縮けて,縮け目になる方を縢り,これを背の上部の裏に縫ひ附ける。

(か)表衿を,裏褄の衿廻りに合せて縫ひ附け,折りは衿の方へ返し,裏衿の奥を,縫ひ代だけ折つて,ミシンを掛ける。

(よ)袖を附ける,其附け方は,袖山の縫ひ目を,肩の縫ひ目より,3寸位後に寄つた處に,合せて縫ひ附け,折りは褄の方へ返して,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(た)胸に附くポケツトの口に,幅1寸に上る樣に,見返しを縫ひ附け,廻りを縫ひ代だけ折つて,これを左前に袖附から1寸下り,脇縫ひ目からも,1.5寸入つた處におき,ミシンを掛けて,口の兩側に閂留めをする。

(れ)脇に附くポケツトの外廻りを,縫ひ代だけ裏に折り,口元には,胸ポケツトと同樣に,見返しを縫ひ附け(兩端を劍形にして置く)これを袖口先がポケツト口の下止りになる樣に,脇縫ひ目からは,1.5寸入つた處に置いて,ミシンを掛け,口の兩側に閂留めをする。

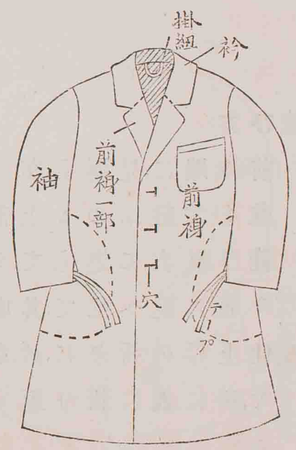
(そ)左前の端に穴を上部から0.3寸下つて一つ,それから3寸置いて

四つ,都合五つの穴を,端か0.3寸入つた處へ0.3寸の大きさに開けて滕る。

(つ)右前の端に穴に合ふ樣に釦を附け,左前には右と同位置に飾釦を附ける。

(ね)肩當ての裾口を,中央で五針か六針,千鳥で縫ひ附ける。

附言　ポケツトは,褄の裏に附けることもある。



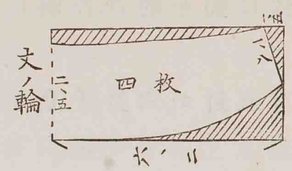
丙種手術衣

名稱　圖參照

裁ち方綜合圖

前褄の重を1.2寸にするのと,表衿を横布に,裏衿と斜布で取るの他は,乙種手術衣に同じ。

分解裁ち方



縫ひ方

(い)前の端に,見返し布を縫ひ附くる際,顎の處は,端から 1.3 寸入つた處まで縫ふのと上部から 8.5 寸下つた處までは,裏を0.05 寸淺く縫ひ,又表に返して,ミシンを掛ける時,裏を淺くした部分は,裏を少々表に返へして,其處はミシンを裏から見て掛ける。

(ろ)仕上げの折りに,衿を前衿肩止りから,前の端は 8.5 寸下つた處まで,斜に表に折り返し,後衿肩の處は,自然に折つて,アイロンを掛ける。

(は)左前に穴を開けて縢る,其開け方は,折り目から 0,2 下り,端からは 0.4 寸入つて, 0.7 寸の大きさに開ける。

(に)右前に釦を附ける,其の位置は,左右の前を 2.5 寸重ねて穴に合ふ様に附ける。

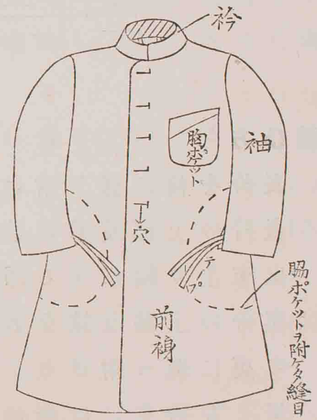
甲種手術衣

名稱　圖參照

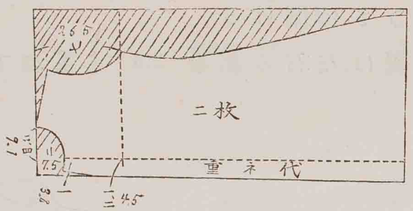
裁ち方　袖,ポケツト,肩當ての裁ち方は,乙種と同じ。

裾に前後の衿肩を,丙種より 0.1 少く,顎を 2 寸にし,前の重ね代を,胸部から下は, 1.2 寸,上部では 1 寸にして,裁ち切るの他は,乙種裁ち方と同じ。

衿布の取り方は,丙種手術衣と同じ(寸法は圖中に記載した)。



前　　褙



衿

裏表を二枚重ねて
丈を二つに折る

縫ひ方

(い)表衿を褙に縫ひ附け,折りは衿の方へ返す。

(ろ)表衿の上部及前の端を,縫ひ代だけ裏に折り,其中に芯布を入れて(出來上り幅にする),折り山から 0.1 寸入つた處に,ミシンを掛ける。

(は)裏衿の上部及端を,表の縫ひ代より 0.1 多く折り返し,これを表衿の裏に纏り附ける。

但し左衿先には,表衿の裏で,衿幅の上下に鈎フツクの根を縫ひ附

け,鈎を裏表の間から出しおき,右衿先には,左と同方法で,鈎に合せる目を附ける。

(に)裏衿の奥を折つて,衿附け縫ひ目の上に,纏り附ける(表衿に芯と共にミシンを,幾筋も掛け,堅くすることもある)。

(ほ)左前に穴を開けて縢る,其開け方は,上部から 0.7 寸下つた處と,それから 2.8 寸置きに四つ,都合五つの穴を,端から 0.4 寸入つた處から奥に, 0.7 寸の大きさに開ける。

(へ)釦の附け方　左右の前を, 1.6 寸重ねて,穴に合せて附ける。

其の他縫ひ方は,乙種手術衣と同じ。

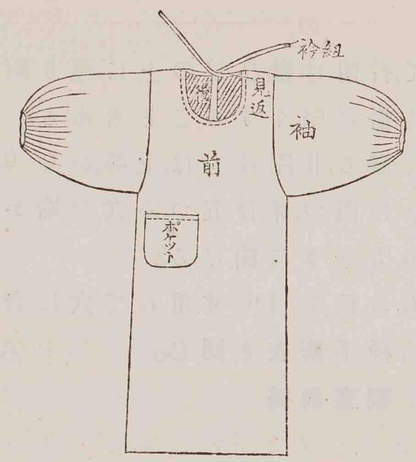
割烹前掛

名稱　圖參照

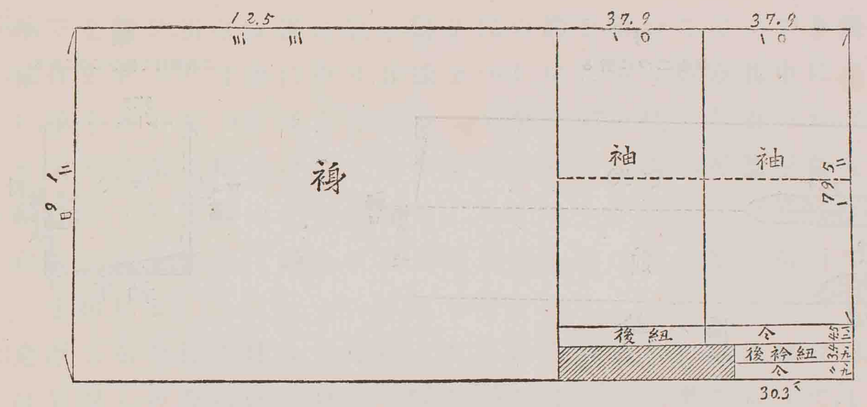
地質　キヤリコ·天竺

寸法　丈·着物の丈より 2 寸乃至 3 寸位,短かくする。

身幅 20 寸乃至 24 寸。



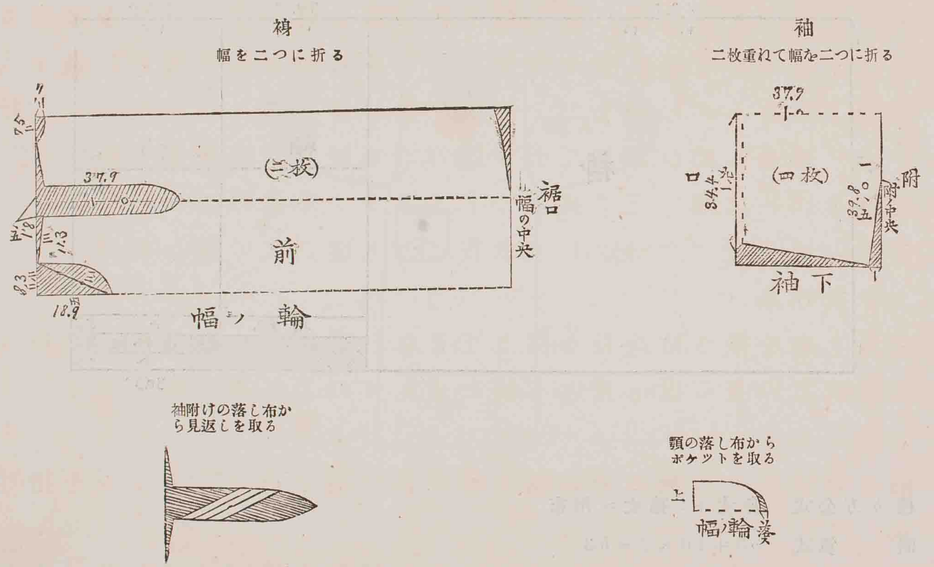
幅 24 寸の布を以て,女割烹衣の裁ち方積り方,



積り方公式　身丈＋2袖丈＝用布。

同　　算式　33＋10×2＝53

分解裁ち方圖



縫ひ方

(い)袖下を縫ひ,折りは後に返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(ろ)袖口先を 0.5 寸裏に折り,其端を 0.2 中に折り込み,其中に糸を入れ,袖下の方を 0.5 殘して,ミシンを掛け,縫ひ殘した處から,ゴム紐を(丈 6 寸)糸に結び付けて引き込み,ゴム紐の兩端を繼ぎ合せる。

(は)裾口を, 0.5 寸幅の三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(に)前後の肩を合せて縫ひ,折りは後に返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(ほ)見返し布を接ぎ,縫ひ目を開きて,これを首廻りに縫ひ付けて,折りは見返しの方に返し,見返し幅を 0.2 寸にして奥を折りて,ミシンを掛ける。

(へ)袖を附け,折りは褄の方に返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(と)紐の一方の端を,裁ち目のまゝにして,紐幅を,衿肩は 0.2 寸に下の

紐は 0.3 寸にして,ミシンを掛ける。

(ち)衿紐を,後衿肩の見返しの上に,下の紐を,上部から 10 寸下つた,後の端の裏に縫ひ附ける。

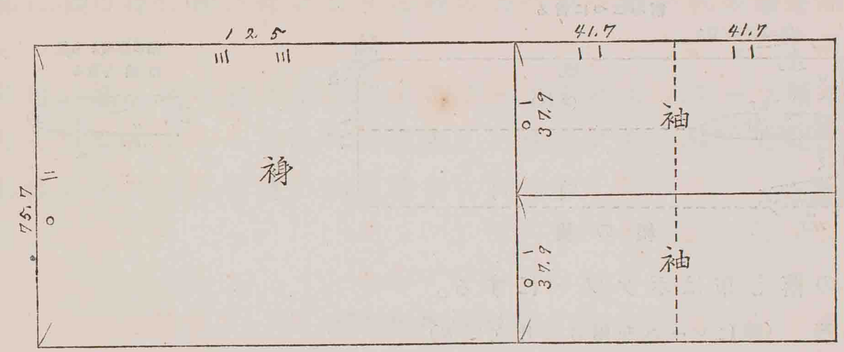
(り)ポケツトの上部を, 0.3 寸幅になる様に,三つ折りにして,ミシンを掛け,兩側と下とを,縫ひ代だけ裏に折つて,これを右袖附け止りから,2 寸下り,脇の折り目からは,1 寸前に寄つた處に置いて,ミシンを掛け,口の兩側に閂留めをする。

幅 20 の布を以て,女割烹前掛の裁ち方。

但し後衿肩の紐及下の紐は,別布又はテープを用ひることもある。

後衿肩紐　下ノ紐

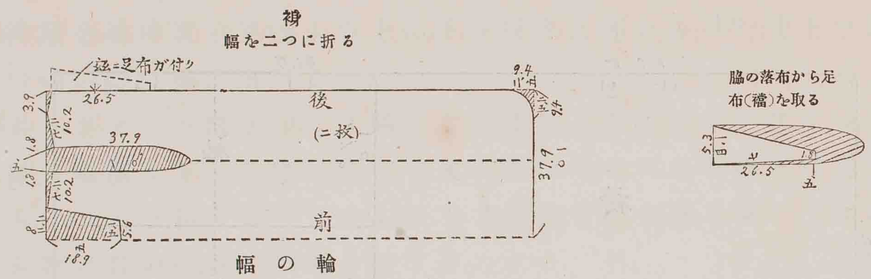
紐丈　10 × 2 + 12 × 2 = 44



積り方公式　(身丈 + 袖丈) × 2 = 用布

同　　算式　(33 + 11) × 2 = 55

分解裁ち方圖



・顎の落し布はポケツトにする。

縫ひ方 (顎にレースを附ける仕立て方)

(い)肩を合せない前に,レースの表を顎の裏に合せて(角の處では,レースの釣れない樣に,襞を取つて,額縁の如くに縫ひ置く)縫ひ,表に返して,レース幅の兩端にミシンを掛ける。但しレースの山が,高い時は,山を布に纏り附ける。

(ろ)肩を袖附けの方から,揃へて縫ふ。

(は)足し布の眞直な方を,三つ折りにして,ミシンを掛け,これを後の上部に,(圖の樣に)縫ひ付け,折りは袴の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(に)衿肩の縫ひ代を,裏に折り,其上にテープを載せて,テープ幅の兩端及丈の端にミシンを掛けて,見返しの代りになし,殘つた紐で結ぶ。

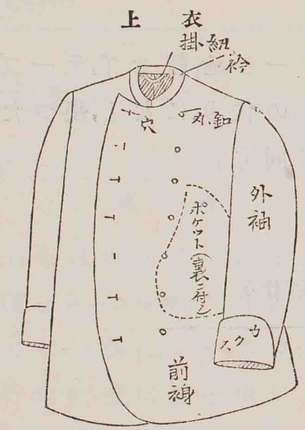
其他の縫ひ方は,前述の割烹前掛と同じ。

參考

顎を斜に裁ち落す仕方

男子の割烹服及帽子

名稱　圖參照

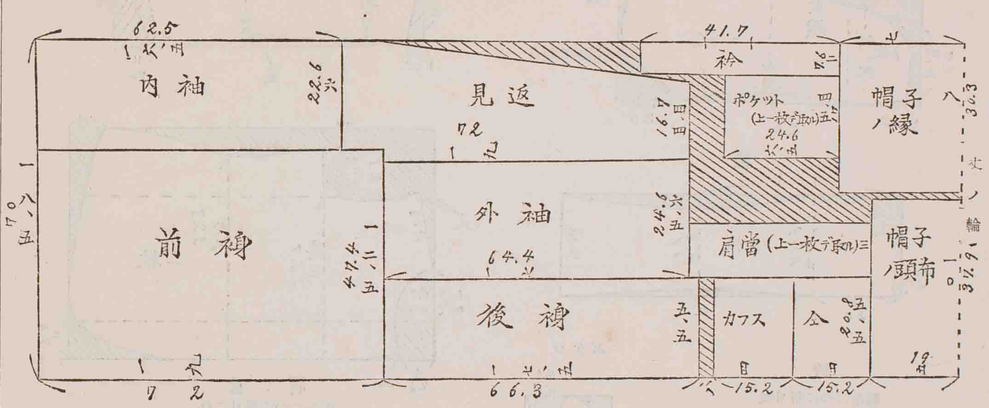


地質　カツラギ及シーチング等。

幅 18.5 寸のカツラギを以て,男子割烹服上着及帽子の裁ち方積り方。

裁ち方綜合圖

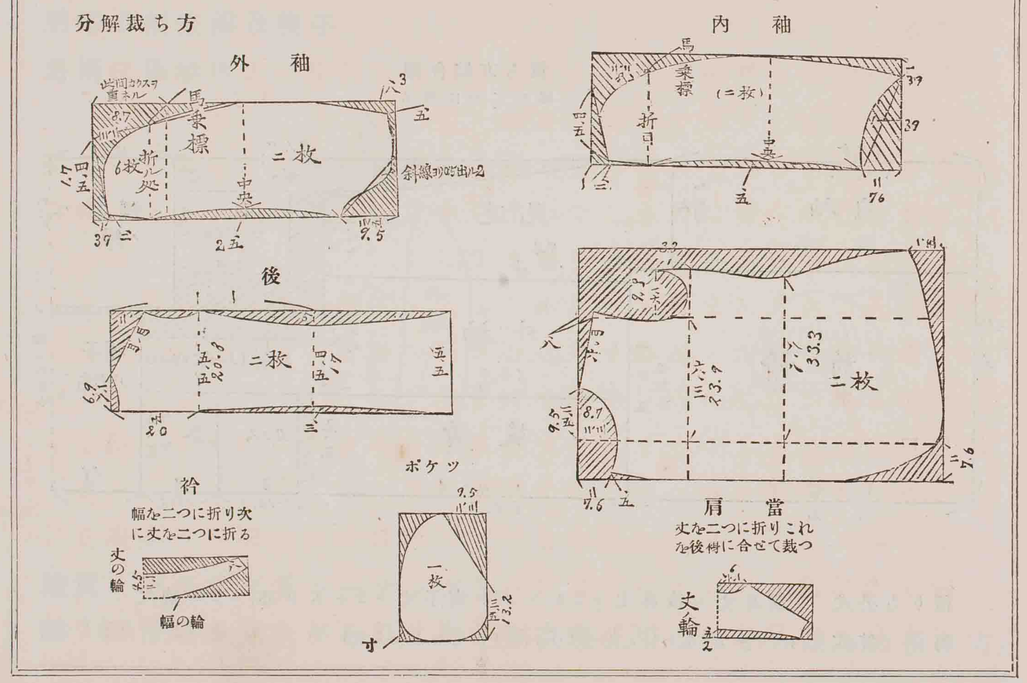
幅を二つに折る



積り方公式　{(前身丈＋後身丈＋2カフス)＋帽子丈÷2＋ムダ布}×2＝總尺

同　　算式　{(19＋17.5＋4×2)＋10÷2＋08}×2＝106

分解裁ち方



縫ひ方

(い)左右の,内袖と外袖とを合せて縫ひ,折りは外袖の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(ろ)外袖の袖下を,縫ひ代だけ表に折り,其裁ち目に,内袖の裁ち目を突き合せ,外袖の縫ひ代を,二つに折り,中の折り角の處に,ミシンを掛ける(但し袖口の折り返しの標まで)。

(は)袖口先にカフスを合せて,馬乗りの處まで縫ひ,表に引き返して,袖下を外袖の裏表で,内袖を挾み,折り目の標まで四つ縫ひになし,それから奥は,カフスだけで縫ひ,表を出す。

(に)袖口に裏から,ミシンを掛けた後,馬乗りから奥のカフスを縫ひ合せ,カフスの奥を折つて,ミシンを掛ける。

(ほ)前の端に見返しを合せ,顎の止りから,裾口・見返し幅のある處まで縫ひ,表に返してミシンを掛ける。

(へ)ポケツトの口を,0.2 寸幅の三つ折りにして,ミシンを掛け,廻りを

縫ひ代だけ裏に折り,これを左前裾の裏に,袖附け下から 1.5 寸下り,前袖附けから前の方へ置き,ミシンを掛ける。

(ど)背を縫ひ,折りは左の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(ち)裾口を三つ折りにして(幅 0.6 寸)ミシンを掛ける。

(り)肩當ての下部を三つ折りにして,ミシンを掛け,後の上部に合せて躾けで押へる。

(ぬ)後の肩と肩當ての肩とで,前肩を挾んで縫ふ。

(る)表衿の裏に芯を(出來上り幅)入れて上部及兩端を,縫ひ代だけ裏に折り返して,ミシンを掛け,これを裾の表に合せて縫ひ附け裏衿を裏側に當てゝ縫ひ(背の上部に掛け紐を挾む)裏衿の上部と兩端とを,表より少し控へて折り,纏り付ける。

(を)左右の袖を恰好よく(手術衣と同じ恰好にする)附け其縫ひ込みを別布で包んで,ミシンを掛ける。

(わ)左右の前の端に,上から 0.5 寸下り,端からは 0.4 寸入つて,0.5 寸の大きさに穴と穴との間を,3 寸宛にして七ケ所に開けて縢る。

(か)左右の衿先きを突き合せて前を重ね(裾口では 3 寸重ねる)穴に合ふ樣に,共布で包んだ,丸い釦を附け,左前には右前と同位置に,同釦を飾釦として附ける。

(よ)衿先きの止りに,衿と裾とにかけて,閂留めをする。

同帽子

裁ち方　頭布を圓形に裁つ。

縫ひ方

(い)頭布の廻りを,頭圍の寸法になる樣に,片襞又はギヤザーをなす。

(ろ)緣布を頭圍に合せて,丈を接ぎ,縫ひ目を開いて,縫ひ代の端にミシンを掛ける。

(は)頭布に緣を縫ひ附け,折りは緣の方へ返し,裏の裁ち目を折り附け,表からミシンを掛ける。

(に)縁を中過から折り返す。

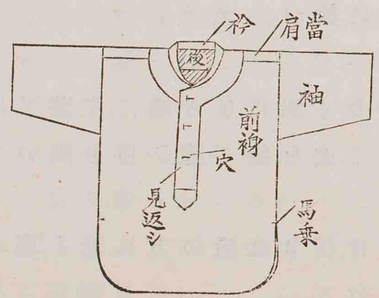
附言　下に穿くズボンは,上着と同地質で,普通洋服下のズボンと同じで,只仕立て方は簡單に,裾口の幅は,普通より廣く仕立てる。

運動着

野球用シャツ

名稱　圖參照

地質　天竺木綿·カツラギ·シーチング等。



仕立て上げ寸法表

(寸單位)

種類 / 名稱	極大	鯨尺 大人	鯨尺 普通ヨリ稍小	鯨尺 15歳ヨリ17歳	鯨尺 12歳ヨリ14歳	鯨尺 9歳ヨリ11歳
胴廻り	31	28.2	25.4	22.7	21.4	18.7
身丈	25.5	18.7	17.4	16	14.7	13.5
裄	16	15.4	14.7	12.7	11.4	10
袖附	6.5	6	5.5	5	5	4.8
袖口	4.5	4.5	4.3	4.2	4	4
衿肩	25	2.3	2.1	1.9	1.7	1.5
顎	3	2.8	2.6	2.4	2.2	2

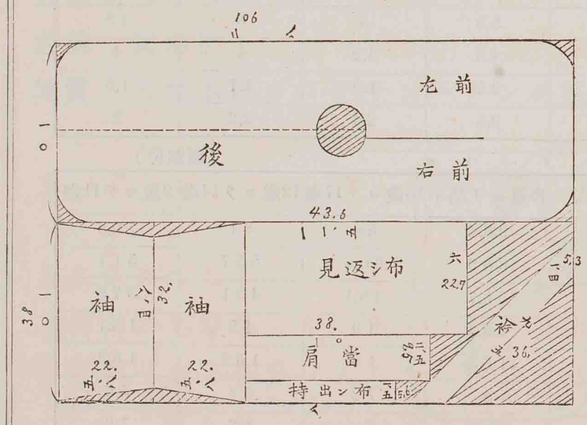
(糎單位)

種類 / 名稱	極大	メートル 大人	メートル 普通ヨリ稍小	メートル 15歳ヨリ17歳	メートル 12歳ヨリ14歳	メートル 9歳ヨリ11歳
胴廻り	117	107	96.2	86	81	70.8
身丈	96.5	70.8	65.9	60.6	55.7	51.1
裄	60.6	58.3	55.7	48.1	43.1	37.9
袖附	24.6	22.7	20.8	19	19	18.1
袖口	17	17	16.3	16	15.2	15.2
衿肩	9.5	8.7	8	7.2	6.4	5.6
顎	11.4	10.6	9.8	9	8.3	7.6

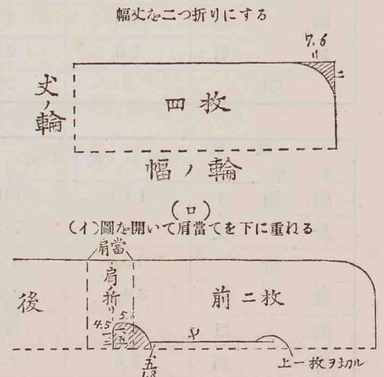
幅 20 寸長さ 28 寸の布を以て,十歳前後の野球用シヤツの裁ち方。

所要裁ち切り寸法 身丈 14 寸 身幅 10 寸 袖丈 5.8 寸 袖幅 10 寸 衿丈 9.5

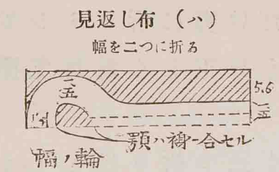
裁ち方綜合圖

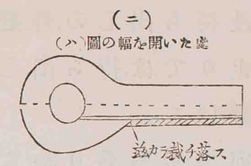


分解裁ち方圖



(肩當ては前に一寸後に一寸五分)





縫ひ方 (ミシン縫)

(い)肩當ての幅の兩端を,縫ひ代だけ裏に折り,これを褙の肩の表の上に載せて,ミシンを掛ける。

(ろ)右前明きの裁ち目の裏に,持ち出し布を縫ひ付け,折りは持ち出しの方へ返し,持ち出しの一方の裁ち目の上部を,見返し布の端に縫ひ附け,折りは持ち出し布の方へ返す。

(は)表を外にして衿幅を二つに折り,これを見返しと褙とで挾んで縫ひ(三つ衿の處では 0.5 寸幅に,それから前は,頸の處で自然に消える樣にする)其糸を續けて,左前は明の止りまで,右前は持ち出しの上部角まで縫ひ,表に返して,ミシンを掛ける。

(に)見返し及持ち出しの外廻りを,縫ひ代だけ裏に折り,ミシンを掛け,明きの止りでは,持ち出しの上に,見返しを正しく重ねて押へてミシンを掛ける。

(ほ)裾口を前後共馬乗りから馬乗まで,細く三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(へ)袖を附け,折りは袴の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(と)袖下と脇とを續けて縫ひ,折りは後の方へ返し,縫ひ代の端を折つて,ミシンを掛ける。

(ち)袖口を 0.2 寸幅の三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(り)左前の見返しに,上部から 0.3 寸下つた處と,それから下を三等分して二つ,都合三つ穴を開けて縢る(穴の大さ 0.3 寸)。

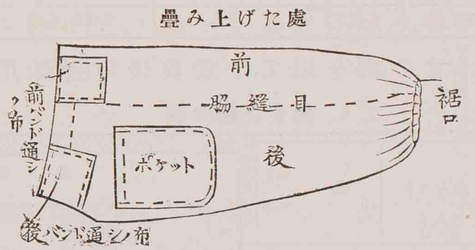
(ぬ)右前明きの持ち出しの上には,穴に合ふ様に釦を附ける。

(る)前明及馬乗り止りに,閂留めをする。

同パンツ

名稱　圖參照

地質　シヤツと同じ。



仕立て上げ寸法表

(寸單位)

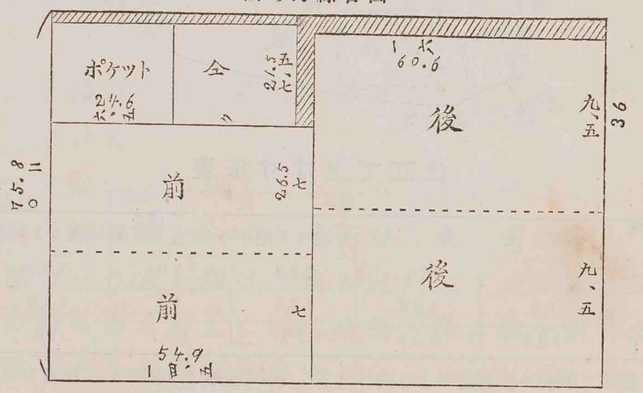
種類 / 名稱	極大	鯨尺 大人	鯨尺 普通ヨリ稍小	鯨尺 15歳ヨリ17歳	鯨尺 12歳ヨリ14歳	鯨尺 9歳ヨリ11歳
胴廻リ	25.5	24	22.8	20	18.8	17.5
丈	20	18.8	17,5	16	14.8	13.5
胯下	14.8	13.5	12	10.7	10	9.5

注意　腰廻りは胴廻りより約10寸多くする(普通より寛やかに仕立てる)

種類 / 名稱	極大	大人	普通ヨヨ稍小	15歳ヨリ17歳	12歳ヨリ14歳	9歳ヨリ11歳
	メートル					(糎單位)
胴廻り	96.6	90.9	86.4	75.8	71.2	66.3
丈	75.8	71.2	66.3	30.6	56	51.1
胯下	56	51.1	45.5	40.5	37.9	36

幅 20 寸,長さ 30.5寸の布を以て,十歳前後の野球用パンツの裁ち方。

裁ち方綜合圖

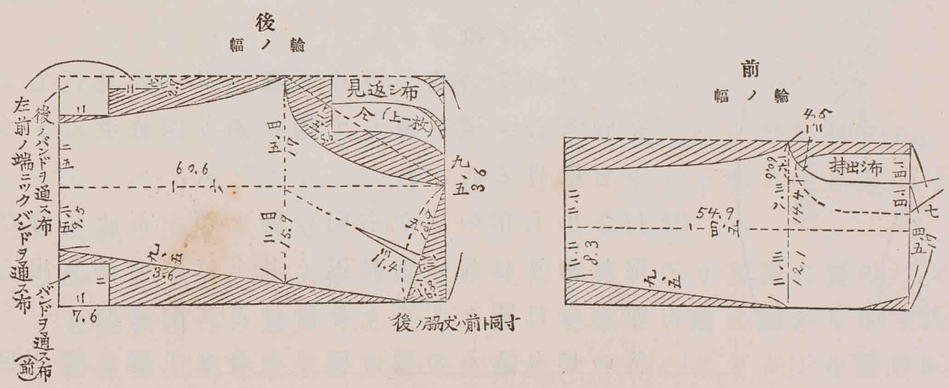


外に裁ち落しの布で,シツクとバンドの裏を取る。

バンド(裏) { 幅 1.5寸 / 丈 18寸

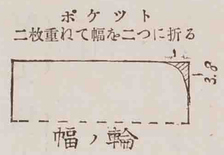
シツク { 幅 1寸 / 丈 5寸

分解裁ち方圖



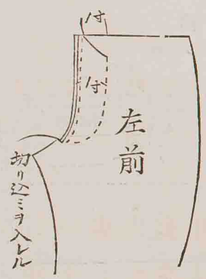
縫ひ方　(ミシン縫ひ)

(い)持ち出し布を二枚合せて,上部と外側になる方とを縫ひ,表に返して,ミシンを掛ける。



(ろ)見返し布を二枚合せて,内側の方を縫ひ,表に返してミシンを掛ける(隠し見返しとなる)。

(は)殘り一枚の見返し布を,左前胯上に,上部から合せて縫ひ,表に返して,ミシンを掛ける。



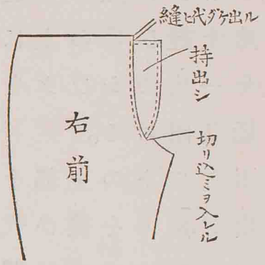
(に)隠し見返しの裏と,左前に縫ひ附け,左見返しとが向き合ふ樣に重ねて,圖の通り四枚共にミシンを掛ける。

(ほ)持ち出し布の表を,右前の胯上標から上に縫ひ附け,折りは前の方に返し,其上に裏の持ち出し布を平に置き,ミシンを掛ける(次圖參照)。

(へ)後の切り込みの,標と標とを合せて縫ひ,縫ひ目

を開き,兩側にミシンを掛ける。

(ち)前後の脇を合せて縫ひ,折りは前の方へ返しミシンを掛ける。



(り)前後の胯下を合せて縫ひ,折りは前の方へ返しミシンを掛ける。

(ぬ)裾口を初め 0.2 寸裏に折り,次に 0.3 寸折つて三つ折りにして,ミシンを掛け(一ケ所 0.5 寸位殘し置く)縫ひ殘した處から,丈 5.5 寸のゴムテープを引き入れ,ゴムテープの丈を接いで輪にする。

(る)見返しの上部を,裏表共に縫ひ代だけ中に折り,上部と横とを 1 寸の間纏り合せる。

を)上部の裁ち目を(胴廻りの處)縫ひ代だけ裏に折り,其裏に裏のバンドを縫ひ代だけ重ねて,ミシンを掛け(見返しの處は,端から 1 寸入つた處まで)裏バンドを下に下し,幅を 1 寸にして,ミシンを掛ける。

(わ)前胯上止りを,能く重ねて,閂留めをする。

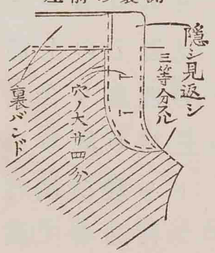
(か)シツクの廻りを,縫ひ代だけ裏に折り,これを前胯上止りから後に胯上縫ひ目の上に置き,廻りにミシンを掛けるか又は纏る。

(よ)今一枚のシツクを,左右胯下の縫ひ目の上に置き,前と同じ方法で縫ひ附ける。

(た)ポケツトの上部を, 0.3 寸幅になる樣に,三つ折りにして,ミシンを掛け,廻りを縫ひ代だけ裏に折り,これを後上部から,3 寸下つた處の,後幅の中央に置いて,ミシンを掛け,口の兩側に閂留をする。

(れ)バンドを通す布の兩横を四枚共細く三つ折りにして,ミシンを掛け,上下を縫ひ代だけ裏に折り,幅の廣い方を,後の中央に上部から下に合せ,二枚の布は,脇縫ひ目から前に,小さい布は,左前の端に後と同樣に置いて,ミシンを掛ける。

左前の裏側



(そ)左前の隠し見返しに圖の通り穴を開けて滕り,

二枚の見返しを揃へて,穴と穴との間を,布の端で留めて置く。

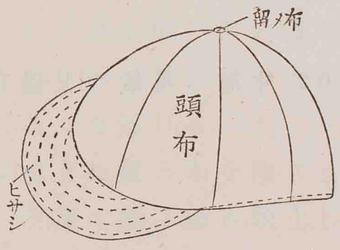
(つ)右持ち出しに,穴に合ふ樣に,釦を二個附ける。

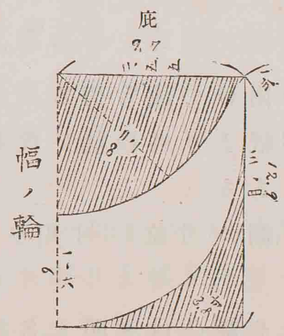
野球用帽子

地質　本ネル・カツラギ等。

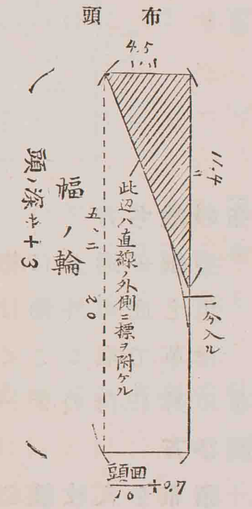
色　本ネルは薄鼠色等を用ひ,カツラギは白か黑にする,又庇を異色にすることもある。

名稱　圖參照



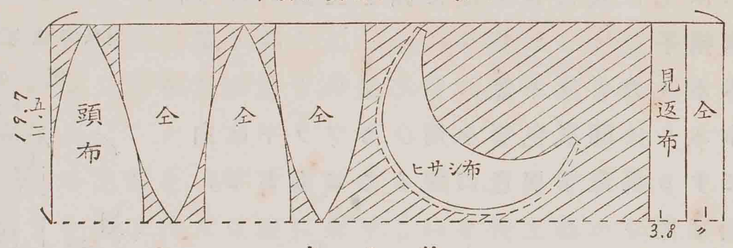


型紙の裁ち方(大人)



幅 18.5 寸長さ 10.4 寸の布に(カツラギ)型紙の置き方。

中表に丈を二つに折る



丈の輪

布の裁ち方

型紙の通りに,標を附けて裁ち切る。

但し庇の外,側は型紙より外に,縫ひ代を 0.2 寸加へて裁つ,又縁布は,革で取ることもある。

布の外に,白のテープ(幅 0.3 寸位)4 3 寸用ひる。

縫ひ方

(い) 頭布を八枚縫ひ合せ,縫ひ目を開き,各縫ひ目の裏に,テープを置き

(縫ひ代幅の廣い分は切り取る),テープ幅の兩端に,ミシンを掛ける。

(ろ庇を型紙通りに,厚紙を裁ち,其上に庇布の表を置き,布幅の廣い分を,厚紙の裏に折つて貼り附け,裏は外側を,厚紙より 0.1 寸控へて,縫ひ代を折り,これを厚紙の裏に纏り附け,名稱圖の様に, 0.2 寸置きに,ミシンを掛ける。

(は)見返し布を,頭圍に合せて接ぎ,縫ひ目を開いて,ミシンを掛け,一方の裁ち目を細く三つ折りにして,ミシンを掛ける。

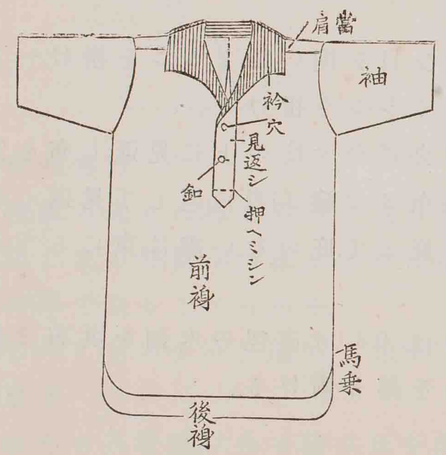
(に)頭布の一所の縫ひ目を,庇幅の中央に合せ,庇の上に,見返し布を置いて縫ひ(庇のない處は,頭布と縁布とで縫ふ)表に返して見返し布を,0.05 寸控へ,庇の處は,見返しと庇とで,庇のない處は,束にして,ミシンを掛ける。

(ほ)頭上に留め布を附ける。其仕方は, 0.3 寸直徑の木釦を共布で包み,裏で縫ひ締め,頭上に置き廻りを纏り附ける。

庭球用シヤツ

仕立て方種類 長袖と短袖とがある,長袖はホワイトシヤツと同様の仕立方で,折り衿でカフスの幅を狭まくする。

名稱 圖參照 (短袖の方)



地質 キヤリコ·斜子·六ツ綾·三ツ綾·モグサ·カツラギ等。

仕立て上げ寸法表

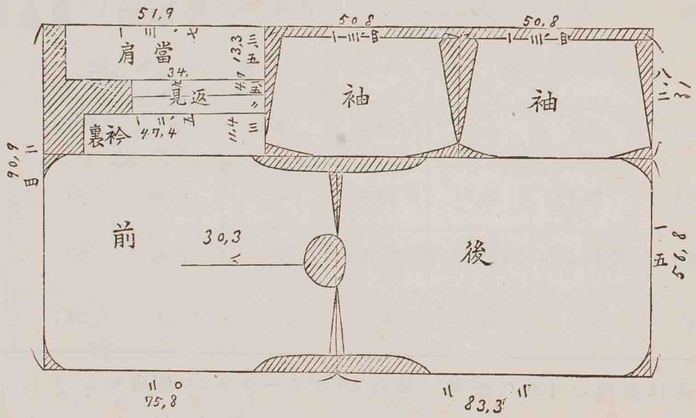
(鯨ハ寸單位,メートルハ糎單位)

種類 名稱	極大		大人		普通ヨリ稍小型		17歳ヨリ18歳	
	鯨尺	メートル	鯨尺	メートル	鯨尺	メートル	鯨尺	メートル
衿丈	10.4	39.4	10	37.8	9.7	36.7	9.4	35.6
裄	20.7	78.4	20.7	78.4	20	75.8	20	75.8
丈	20,7	78.4	20.7	78.4	20	75.8	20	75.8
胴廻り	28	106	28	106	26.7	101.1	26.7	101.1

但し以上の裄は長袖の寸法で短袖の時は2.6寸(メートル10糎)詰める

幅24寸の布を以て,大人用庭球用シヤツの裁ち方。

裁ち方綜合圖

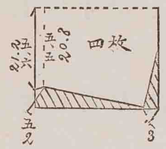


但し表衿はピケーを幅13寸,丈6.5寸用ひる。

分解裁ち方圖

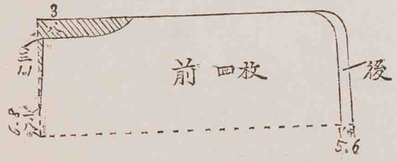
袖

二枚重ねて13.4寸の方を二つに折る



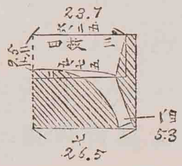
(ロ)

(イ)圖をずらして前後の差を附ける



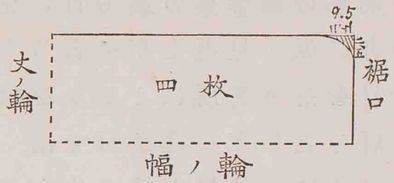
衿

裏表共に丈を二つに折り表衿の上に裏衿を重ねる



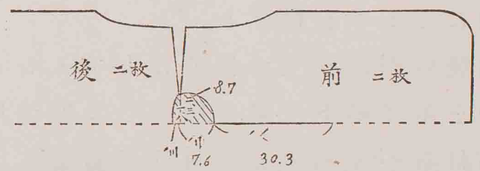
梅(イ)

幅丈共二つに折る



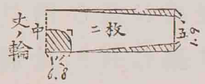
(ハ)

(ロ)圖の後を左に開いた處



肩當

丈を二つに折る



縫ひ方　（ミシン縫ひ）

(い)左右の明きの處で,裏の裁ち目に見返し布を,合せて縫ひ附け,折りは袴の方に返し,見返し布を表の方へ折り返し,幅を0.8寸にして,奥の裁ち目を折り,其所にミシンを掛ける。

(ろ)前後の肩を表の方に,縫ひ目を出して縫ひ,縫ひ目は左右に開く。

(は)肩當ての前後の裁目を,縫ひ代だけ裏に折る。

(に)衿肩の中央で,袴を0.5寸摘んで襞を取り,其上に肩當てを載せて,前後にミシンを掛ける。

(ほ)前後の裾口を,三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(へ)袖を附け,袖下及脇を縫ふこと,野球用のシヤツと同じ。

(と)袖口を,0.3寸幅の三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(ち)裏表の衿を合せて,外廻りを縫ひ,表に返して,ミシンを掛ける。

(り)裏衿を表袴に縫ひ附け,折りは衿の方へ返し,表衿の奥及下部を,縫ひ代だけ裏に折り,(衿肩廻りの邊までは,裏衿の附けと揃へ,それから前は幅の廣いまゝに平にする)ミシンを掛ける。

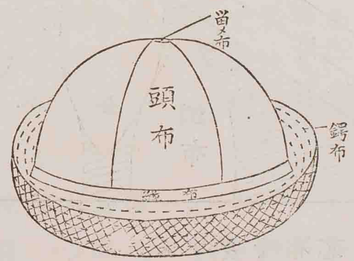
(ぬ)見返しの端にミシンを掛け,左右の見返しを重ねて押へ,ミシンを掛ける。

(る)穴を左見返しに顎の止りから2.5寸下つた處と,それから下,明きまでの中央とに開けて縢る,(穴の大さ0·3寸)。

(を)右見返しの上には穴に合ふ樣に,釦を附ける。

庭球用帽子

名稱　圖參照



地質　カツラギ·斜子·梨子地織綾織等。

型紙の裁ち方

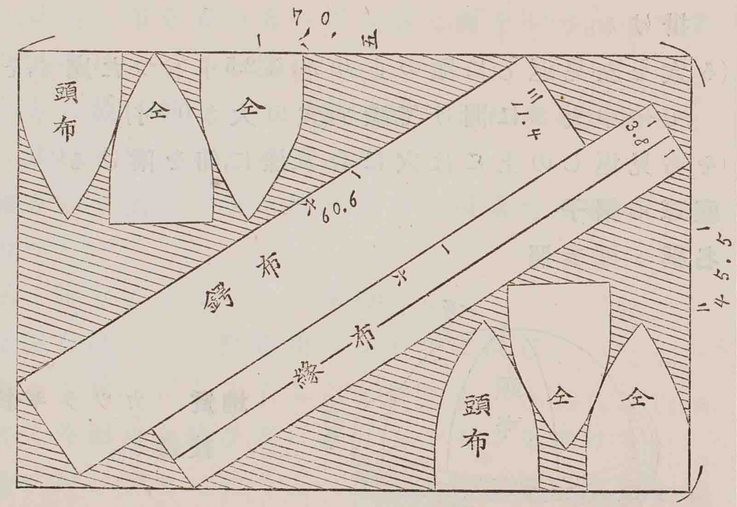
頭布

幅ノ輪 頭圍+3

頭圍+0.7

幅18.5寸長さ12寸のカツラギを以て大人

庭球用帽子の裁ち方



外に白のテープ30寸と鍔の中に入れる芯布を要する。

縫ひ方 （ミシン縫ひ）

(い)頭布を六枚縫ひ合せ,其縫ひ目の裏にテープを當てゝ押へること,野球用帽子と同じ。

(ろ)縁の裏表を頭圍に合せて接ぎ,縫ひ目を開く。

(は)縁の裏表で頭布を挾んで縫ふ。

(に)鍔布の幅を二つに折つて,内側になる方に,濕りを與へて,布を縮め,外側になる方へは,アイロンを懸けて布を伸ばして鍔の形を作つた後,頭圍に合せて丈を接いで縫ひ目を開き,中に斜の芯を一枚入れ(木綿位の厚さで表の布に合ふ樣に入れる)て名稱圖の樣に)0.2寸置きにミシンを掛ける。

(ほ)鍔を表縁布に縫ひ附け,折りは縁の方へ返し,裏縁を折つて纏り附ける。

庭球用パンツ

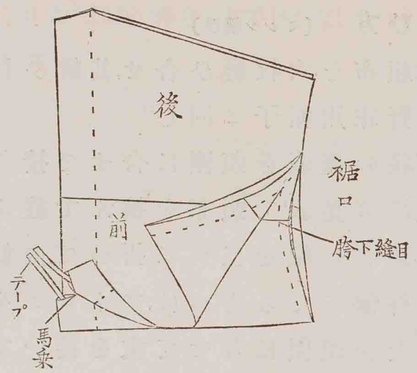
地質 ジユンス・六つ綾・セル等。

仕立て方　洋服のパンツと同じ。

ランニング用猿股

名稱　圖參照

地質　キヤリコ·天竺·ポプリン等。

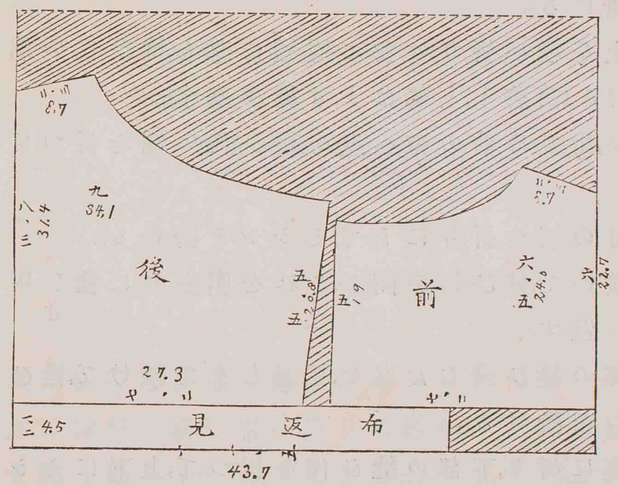


仕立て上げ寸法

（鯨尺ハ寸單位 メートルハ糎單位）

種類 / 名稱	大人		18歳ヨリ19歳		15歳ヨリ17歳	
	鯨尺	メートル	鯨尺	メートル	鯨尺	メートル
丈	8	30,3	7.7	29.2	7.4	28
胴廻	24	90.9	22	83.3	18.7	70.8
腿廻	16	60.6	13.5	51.1	10.5	39.7
胯下	2	7.6	1.7	6.4	1 7	6.4

幅24寸長さ16寸の布を以て,十四五歳のランニング用猿股の裁ち方。



縫ひ方 (ミシン縫ひ)

(い)前後の脇を合せて縫ひ,折りは前の方へ返し,縫ひ代の端を折つてミシンを掛ける。

(ろ)前後共胯上を縫ひ,折りは背と同様に返し,縫ひ代の端を折つてミシンを掛ける,(前胯上,上部は1寸縫ひ殘す)。

(は)胯下を縫ひ,折りは前の方へ返し,縫ひ代の端を折つてミシンを掛ける。

(に)裾口を0.2寸の三つ折りにして,ミシンを掛ける。

(ほ)見返しを接いで,縫ひ目を開き,これを胴廻りに縫ひ附け,折りは見返しの方へ返す。

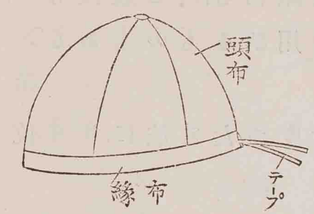
(へ)前胯上・上部の縫ひ殘した處を,見返しまで續けて,縫ひ代だけ裏に折り,ミシンを掛ける。

(と)見返しを裏に折り,下部の縫ひ代を折つて,上下にミシンを掛け,見返しと袴との間にテープを通して置く。

(テープの丈25寸)

ランニング用帽子

名稱 圖參照



地質 庭球用帽子に同じ。

裁ち方

頭布,丈を0.3寸長くする外は,庭球用帽子と同じ。

縁布 { 幅1寸
丈＝頭圍＋縫ひ代×2

縫ひ方

(い)頭布を庭球用帽子と同樣に縫ふ。

(ろ)頭布の下部に,縁布を縫ひ附け,折りは縁布の方へ返し縁の丈を接ぎ,縫ひ目を開き幅を0.3寸にして裏を折り附けて,ミシンを掛ける。但し縁布の後を明け,其處から中に,紐又はテープを通し,後で結ぶ

こともある。

水泳着

名稱　圖參照

地質　天竺木綿·眞岡木綿·毛織物等,但し競技等の時には絽·羽二重等の絹布を用ひるものもある。

寸法の取り方

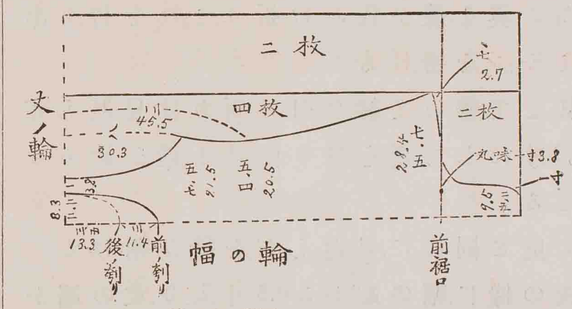
丈　肩から腿の附け根まで度つた寸法に,3寸位加へる。

幅　胴廻り·腰廻り·腹部から3寸上つた處の廻りを度り,其寸法に3寸乃至4寸加へる。

幅20寸長さ42寸の布を以て,男子の水泳着の裁ち方。

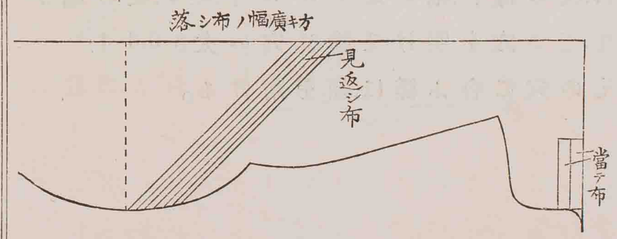
所要裁ち切り寸法　身丈21寸,持出し丈5寸

20寸幅の內15寸の間を幅二つに折り
後の丈を5寸長くして丈を二つに折る。



見返し布｛幅六分2.3
　　丈約一丈六寸420.4

當布｛幅一寸二分4.5
　　丈五寸2



縫ひ方

(い)前後の脇を合せて縫ひ折りは後の方へ返し,縫ひ代の端を折つて纏り附ける。

(ろ)一枚の當布の廻りを,縫ひ代だけ折り,これを前幅の中央で,裾口から1寸上つた處の裏に當てゝ,廻りにミシンを掛ける。

(は)持ち出しの處に付ける,當布の奥を,縫ひ代だけ折り,これを持ち出しの端の裏に合せて,奥に,ミシンを掛ける。

(に)見返し布を後衿肩から,前顎まで續けて縫ひ付け,折りは見返し布の方へ返し,見返しの幅を0,2寸にして奥を纏り附ける(縫ひ始めと,縫ひ終りとは丈を接ぎ合せる)。

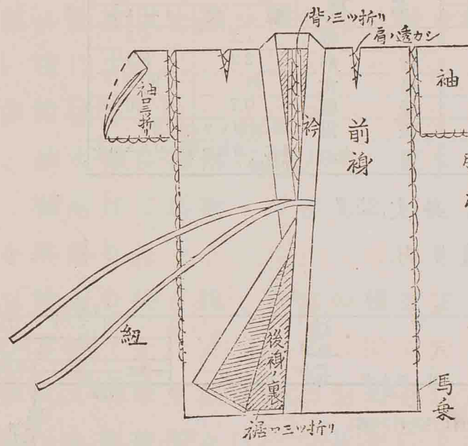
(ほ)袖附け刳りと,裾口とに,顎の處と同樣に,見返し布を縫ひ附ける。

(へ)持ち出しの當て布の上に,圖の樣に,幅の端から0.5寸入り,丈の端からは,見返し幅だけ入つて,二つ穴を明けて縢る,(穴の太さ0.3寸)

(と)前當て布の上に,持ち出しの穴に合ふ樣に,釦を附ける。

水着

名稱　圖參照



地質　晒木綿・天竺木綿等

縢り糸　白の六番

備考　縢り縫ひをするのは水切りをよくするため

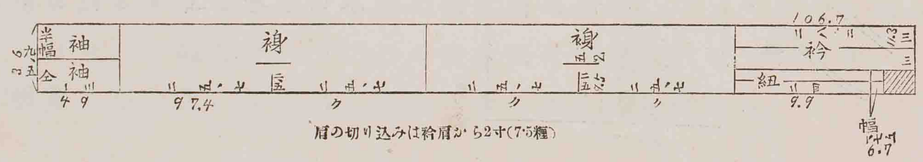
仕立て上げ寸法

(鯨尺は寸單位 メートルは糎單位)

名稱	寸法 鯨尺	寸法 メートル	名稱	寸法 鯨尺	寸法 メートル
袖丈	6	22.7	衿幅	1.2	4.5
袖幅	半幅	17.9	衿肩	2.2	8.3
身丈	25	94.7	紐丈	24	90.9
後幅	8	30.3	紐幅	0.7	2.6
前幅	仝	仝	紐附	105.(衿肩カラ)	40
馬乘	7	26.5	備考	身丈ノ身幅ハ着スル人ニヨツテ斟酌スル	

所要裁ち切り寸法　袖丈, 6 寸　身丈,25.7

並幅の布を以て,水着の裁ち方積り方。



積り方公式　上り身丈＋衿肩＋上の接代と下の縫代＝裁切衿丈

2 裁切袖丈＋4 裁切身丈＋衿丈＝總尺

同　算式　25＋2.2＋1＝28.2

6.5×2＋25.7×4＋28.2＝144

注意　二枚以上裁つ場合には,衿を裁ち合せて,衿山に接ぎの出來ない樣にする。

標の附け方

袖　袖丈·袖口·袖附けの方,共に三つ折り代の標を附ける。

裾　袖附けと馬乘りの標を附けて,背と脇と裾口とに,三つ折りの標を附ける。

衿　衿山の接ぎ代と衿丈の標をする。

縫ひ方

(い)袖口と袖附けを,全部三つ折りにして纏る。

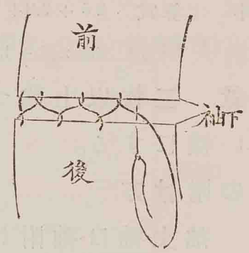
(ろ)袖下を前後別々に,三つ折りにして纏る。

(は)前後の袖下を,次圖の通り,縢り合せる。

(に)肩の裁ち目を,下の方は自然に消える樣に,兩側共三つ折りにして

纏る。

(ほ)裙を一枚づゝ背,脇及裾口を三つ折りにして纏る。



(へ)肩の裁ち込みを纏りたる後,左右の背を突き合せて纏る。

(と)脇の前後を馬乘りから縢り合せ,袖附けの處では糸留めをなし,其糸で袖を縢り附ける。

(ち)衿を接ぎ,縫ひ目を割り,これを襦袢の衿と同様に附ける。

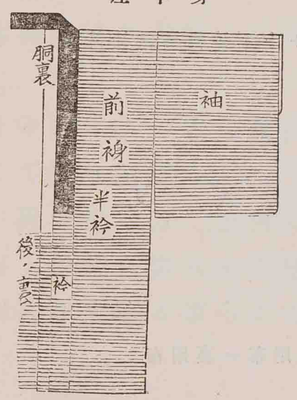
(り)紐を二本共,一方を裁ち目のまゝにして絎け,これを衿の上に一つ,身の紐附けと同様に附ける。

袢纏類

女綿入袢纏

名稱　圖參照

左半身

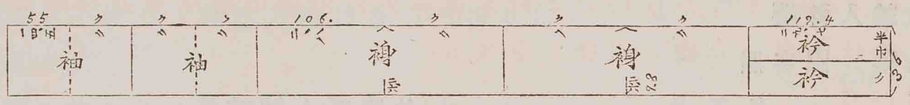


仕立て上げ寸法

名稱		寸法
袖		羽織と同寸
身丈		羽織身丈−1寸
衿肩明		着物＋0.1寸
身幅	前	衿肩ヨリ眞直ニナス
	後	著物ト同寸又ハ0.3寸增ス
衿幅		1.3寸ヨリ1.4寸
繰越		羽織ト同寸
半衿丈		40寸内外

並幅長さ２００寸の布を以て,女綿入袢纏表の裁ち方積り方。

但し袖丈14寸　身丈25寸　繰越し0.3寸



積り方公式　上リ身丈＋三ツ衿縫代＋繰越×2＋衿肩＋上下縫代＝裁切衿丈

〈總尺－(4裁切袖丈＋衿丈)〉÷4＝身丈

同　　算式　25＋0.3＋0.3×2＋2.3＋1.5＝29.7

〈200－(14.5×4＋29.7)〉÷4＝28強

裏の裁ち方

衿を取らない他は,表の裁ち方と同じ。

裏用布の積り方

公式　8上リ袖丈＋8上リ身丈＋衿裁切丈＋總縫代－表用布＝裏用布

算式　14×8＋25×8＋29.7＋12.8－200＝154.5

總縫代の内譯　袖下縫代　胴接縫代　三衿縫代　繰越
0.5×8　＋　0.5×8　＋　0.3×8　＋　0.3×8　＝12.8

標の附け方

襠と前下りとがないのと,衿が違ふ外は,羽織の標附け方に同じ。

衿は,山接ぎの標と丈標とをする。

縫ひ方

(い)袖裾の縫ひ方·綿の入れ方·衍け方は,襠がないだけで,他は羽織に同じ。

(ろ)衿の附け方　表に眞直に縫ひ附け,衿附けを綴ち,衿先きを縫ひ,裏にて衍け附ける。

(は)半衿の掛け方　狹衿の着物の半衿掛け方に同じ。

附言　半衿は黑八丈·黑繻子·黑毛繻子等を用ひ,半衿を掛ける,下には別衿を用ひる事もある。